

風かせさそふ  
(浅野内匠頭あさのたくみのかみ)

**解説** かねてより吉良上野介義央からイジメのことをされていてその鬱憤うっぷんが爆発して刃傷にんじょう沙汰を起こし。切腹を命じられ、切腹の場面で残した辞世の句。とても無念さを感じる辞世の句である。

風かせさそふ  
花はなよりも  
なほ  
我われは  
また

**語釈** ※名残Ⅱある事柄が過ぎ去ったあとに、なおその気配や影響が残っていること。※いかにとやⅡどうしたことか。どうしてか。

春はるの  
名残なごりを  
いかにとや  
せん

**通釈** 風に誘われて散る花も名残惜しいだろうが、それよりもなお、春の名残が惜しい私は、一体どうすれば良いのだろうか。